

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年9月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4071601738
法人名	株式会社 さくら苑
事業所名	グループホーム さくら苑
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市南1-17-1 (電 話) 0942-36-2115
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年8月8日

【情報提供票より】(平成20年7月21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計		18	人
職員数	21 人	常勤 15人, 非常勤 6人,		常勤換算 13.5人	

(2)建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	新築/改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円		その他の経費(月額)	435 円	
敷 金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無		有りの場合 償却の有無		有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円	
	夕食	350 円	おやつ	50 円	
	または1日当たり 円				

(4)利用者の概要(平成20年7月21日現在)

利用者人数		18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1		3	名	要介護2	4	名
要介護3		7	名	要介護4	3	名
要介護5		1	名	要支援2	0	名
年齢	平均	85.16 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	内科筒井医院・新古賀病院・ならはら整形外科・毛利歯科・しらお眼科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅やアパートが建ち並ぶ住宅街に在り、地域に密着したホームである。リビングや廊下等、どの居室も明るくゆったりとした広さで、落ち着いた雰囲気がある。常に利用者の立場に立った利用者主体のケアを、スタッフが一人丸となって努力しており、入居時より介護度が軽くなった利用者も多い。医療面では、一人の利用者のかかりつけ医として往診していた医師の行き届いたケアに、利用者が信頼を寄せており、往診を依頼している。2日に1回の往診と24時間何時でも緊急時の対応が確約されている。また、ゆとりある職員数で利用者の安全を重視している。職員は、利用者を家族の一員として捉え、共に支えあう関係が築かれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	2ヶ月毎に運営推進会議が開催されている。意見があった場合は、それをミーティング時に全職員で検討し、改善点については速やかに取り組み、サービスの向上に活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員で手分して取り組む中で、職員からの気づきや提案があり、ミーティング時に全評価項目について検討し、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、利用者・家族・市消防本部高齢者対策課職員・地域包括支援センター職員・自治会長・市議会議員・市長寿介護課職員・市介護相談員の参加を得ている。消防署職員から防火についての注意点や、市職員から困っていることがないかとの問いかけや助言があった。また、ホームでの暮らしぶりやケアについての報告に、高齢者への理解を深めたり、関心を示されることもあり、有意義な会議になっている。意見や助言等は速やかに日々のケアに活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会がある。家族の訪問時には担当職員が日常の様子を話し親しく会話するなかで、意見や苦情が言いやすい雰囲気作りを心掛けており、これまでも利用者の衣類について希望や意見を言っていたり、スムーズに改善できたことがある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会総会への参加・地域の夏祭り・子供会主催の餅つきに参加したり、近隣の方々が手作りの野菜等を届けてくれるなど、地元の方々と親しく交流している。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境の中でサービスの質の向上に取り組みながら、地域社会の一員として暮らし続けることを、事業所独自の理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関正面に掲示されており、毎朝の朝礼時にも唱和されている。月1回全職員参加で開催されるミーティングで理念を基にケアの見直しを行い、職員間で理念の共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会総会への参加・地域の夏祭り・子供会主催の餅つきに参加したり、近隣の方々が手作りの野菜等を届けてくれるなど地元の方々と親しく交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	調査項目を全職員で手分けして自己評価しており、その中で職員の気づきにより、ミーティングで検討し改善に向け取り組まれている。昨年度の外部評価の結果は十分に検討し、日常のケアに活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、利用者・家族・市消防本部高齢者対策課職員・地域包括支援センター職員・自治会長・市議会議員・市長寿介護課職員・市介護相談員の参加を得ている。ホームの現況報告や情報交換を行い参加者から率直な意見やアドバイスをいただき、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の介護申請で市へ出向いた際には、必ず担当者に面談し、ホーム側から助言や提言を行い、また行政からの助言等を聞いて情報の共有を図っており、サービスの質の向上に活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度についてグループホーム協議会、市が行う勉強会や研修会に積極的に参加し、ミーティング時等に他の職員に伝達研修をしている。必要な方には活用できるように支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回発行される「さくら苑便り」に利用者の写真や暮らしぶりを掲載しており、それを郵送したり、家族の訪問時には現況を詳しく伝えている。預かり金の収支は毎月の請求書に領収書を添えて確認してもらっている。職員の異動についてはさくら苑便りで家族に知らせている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には親しく会話をすることで、意見や不満、苦情が言い易い環境づくりを心掛けており、これまでも利用者の衣類について希望や意見を言っていたき、スムーズに改善できたことがある。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はユニット間で行い、職員は毎日の出勤・退勤時には2ユニットに挨拶をしており、顔なじみである。離職時には新任者と馴染みの職員が1ヶ月間重複して勤務し、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢で採用を考慮するのではなく、仕事への意欲と介護に就く意思の確認等で採用の判断をしている。現職員については外部研修への希望があれば受講料や交通費をホームで負担したり、勤務表の調整をして支援している。また、希望する休暇が得られるように配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、日々のケアにおいて利用者への尊厳を第一に指導している。また、研修会に参加した職員が朝礼やミーティング時に伝達したり、利用者への声掛けなどを職員間でも気をつけあっている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市やその他開催される研修会・勉強会には職員に積極的な参加を促し、受講者には受講料の半額支給、交通費の全額を支給しており、職員の意欲・知識・技術の向上を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護福祉サービス事業者協議会に加盟しており、グループホーム部会において、今後勉強会や研修会等で職員間の交流を図る予定であるが、現状では積極的な交流とは言いがたい。	○	グループホーム協議会等を通して同業者間での交流を図る機会を作り、グループホーム相互間でのサービスのレベルアップに取り組まれることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族との会話を深めたり、ホームで他の利用者と触れ合い、昼食をともにしている。その後、2泊3日の無料体験入居をしていただき、十分に納得いただいたうえで入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理では、皮のむき方・味付け・盛り付けを教えてもらったり、ゴーヤや胡瓜の育て方・洗濯物のたたみ方を教えてもらうこともある。また、戦争体験者に戦中、戦後の歴史を学び、喜怒哀楽を共にしたり支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始にあたり、これまでの暮らし方、好きな事などを本人や家族から情報を得ると共に、日常の会話の中から本人の思いや、意向の把握に努めている。居室には個々の家族の写真、好みの飾り物などが置かれている。また、ベッドの位置や向きなど、本人本位に配慮されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が他の職員の気付きなどで得た情報を基にスタッフ間で意見の交換を行っている。おむつ使用者には、時間を見計らったトイレ誘導で尿意を取り戻させている。入居後まもなくおむつが不要になった方が多くおられ、利用者の意見やアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況や効果等を評価し、基本的には3ヶ月に1回の見直しを行っている。利用者の状態の変化に応じて随時見直しも行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前2泊3日の体験入居、お寺詣り、買い物、病院への送迎など本人と家族の意向や状況に応じて、臨機応変に、かつ、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望でこれまでのかかりつけ医での受診と共に、事業所の協力医療機関での受診の支援をしている。緊急の場合、夜間の往診など適切な医療が受けられる体制を整えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を定め、ホームの有り方を家族に説明している。終末期については、家族の意向を尊重し、状況に応じて関係者との話し合いを繰り返し行い、統一した方針を全員で共有している。これまでに4名の方を終末まで介護している。尚、現在1名の方の終末に携わっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレへの声かけなど、周りに気付かれないように耳元で伝えるなど、誇りを損ねないようにしている。長い期間を共にすると言葉遣いが馴れ合いになり易い為、職員間で留意している。また、記録等はスタッフルームに管理保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まですべてその人のペースに添って支援している。多忙な時は職員のペースにならないよう、特に気を遣いながら対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は海老フライの要望が多いため誕生会や日常にも多く取り入れている。また、個人の状態に合わせて、終末期の方へは同じメニューで全品をとりみ食にして本人の状態に合わせ、十分に時間をかけて提供している。利用者と職員が同じテーブルを囲み同じものを摂食している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴の日は決められているが、利用者のその日の体調や状況に合わせている。入浴中は、会話やマッサージなどで雰囲気をつくり、無理なく楽しく入浴出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	塗り絵、手芸などの楽しみごとや年賀状、暑中見舞状書き、食事時の配膳、片付け事の手伝いなど、個々の能力に応じて張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は必ず一日一度は散歩にでかけている。また、季節の花見、ドライブなどにも出かけている。希望に応じて、一人ひとりの体調や状態に気を配りながら買い物外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、センサーが設置されている。利用者の外出を察知しても外出を止めずに職員が一緒に出かけ、本人の気持ちを落ち着かせて対応をしている。日中は、玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、全職員参加して定期的に避難訓練を実施している。夜間想定訓練もしている。緊急時の避難経路図、通報訓練等のマニュアルを作成して掲示し、全職員周知している。地域との関わりや協力と理解を運営推進会議を通じて働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態にあわせ、きざみ食、粥食、ミキサー食で対応できる。水分補給は、提携医の専門的な指導のもと、日中、就寝前、夜間など一日を通じて水分量を確保し、食事、水分摂取量と共に記録し全職員で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所に手摺を設置し、浴室には床面を広く使えるように柵をつけ、安全面に配慮している。廊下には行事の写真や利用者の作品を飾っている。掃除が行き届き、清潔で衛生面に留意されている。季節の花を飾り、生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせる工夫をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の床は本人の要望に応じて畳やフローリングにしている。ベッドの使用も利用者の希望に合わせている。仏壇や鏡台、家具など入居前に使用していたものを持ち込み、壁のボードには、家族の写真が貼られ、本人が居心地よく過ごせる個性ある居室になっている。		